

コラム

脱「新卒一律処遇」広がる！

- ◆日本経済新聞社がまとめた2026年度採用計画調査によると、25年度の初任給を30万円以上とする企業は131社と24年度の58社から倍以上増えたと言う。人手不足を背景に新卒採用数は2ケタの伸びを示す。そうした中、学生を一時期に同じ条件や待遇で採用する画一的な仕組みを見直す企業も増えてきている。
- ◆富士通は2025年度から処遇や採用時期が一律の新卒採用をやめるという。新卒と中途を区別せず、職務や専門性に応じて必要な人材を採用する。同社は「若手社員に、より専門性や付加価値の高い仕事を担ってもらい、見合った報酬で処遇していく」と狙いを語る。高度な専門性などを持つ人材は新卒でも年収1000万円程度になることもあるという。
- ◆新卒の画一的な採用はコストや手間をかけずポテンシャル(潜在力)のある学生を大量に囲い込むことが出来、入社後も効率よく教育することが出来る。「新卒一律」の仕組みは、若者を毎年一定数採用する企業優位の「買い手市場」の中で主流の採用手法として浸透してきた。
- ◆しかし、近年は少子化で学生優位の「売り手市場」が続いている。業種を超えた競争も激しくなり、各社が求めるスキルや経験をピンポイントで確保しなければ生き残れない。若者を各社が引き込むためには、それぞれの能力により処遇を決める

柔軟な採用戦略が不可欠になる。

- ◆新入社員でも能力に合わせ一律の初任給をやめる動きも広がっている。大和証券は高度なデジタル技術や金融工学の知識を持つ人を対象にした「エキスパート・コース」で初任給を50万円以上にした。25年卒の総合職の初任給(30万円)に20万円以上の差をつけた。入社後も年齢にかかわらず成果で待遇を決めようとする考えのようだ。
- ◆海外の大学の卒業者や大学卒業後数年の社会人経験がある「第二新卒」など様々な人材を確保するには一括採用では取りこぼす可能性が高い。そのため、1年を通じて採用活動を行う「通年採用」も浸透してきている。コスモエネルギーホールディングスは24年1月、通年採用に切り替えた。入社は4月に統一するが、エントリーは常時受け付け、採用選考も随時実施している。
- ◆人材不足の波は「学歴」による待遇差も覆そうとしている。回転ずし「スシロー」を運営するあきんどスシロー(吹田市)は24年1月以降に入社した高卒と大卒の新入社員の初任給を2万円増の25万円に引き上げた。学歴に関係なく全員を店舗に配属している。人手不足の波は、従来の「新卒一律」の常識を壊そうとしている。

情報源:日本経済新聞 2025/04/07

today's

PayPay給与100社超 デジタル払い、導入広がる

- ◆PayPayは11日、デジタル給与払いサービス導入先が100社を超えたと発表した。2024年に参入してから初めて実績について明らかにした。サカイ引越センターや吉野家など業界大手が採用したことで、運送や飲食業の中小企業を中心に導入が進んでいるという。PayPayでは労務管理ソフトとの連携を通じ、小規模な事業者にも呼び掛ける。
- ◆同日、オービックビジネスコンサルタント(OBC)の労務管理ソフト「勘定奉行Edge 労務管理電子クラウド」との連携を始めた。従業員はPayPayの専用画面から申し込みをした後、管理ソフト側の連携ボタンを押すだけで入金用口座などの必要な情報の入力を完了し振り込みを依頼できる。従来はソフト側でも口座情報などを入力しなければならず、入力ミスによる振り込みエラーの原因になっていた。
- ◆デジタル給与払いは23年4月に解禁され、PayPayは24年11月ソフトバンク以外の企業へもサービスの提供を始めた。労務管理ソフトは中小・零細企業と有力な接点になっている。

日本経済新聞 朝刊 25/04/12【15面】

福岡の中小、賃上げ広がる 6.01%、15年以降で最高

- ◆3月に主要企業の過去最高水準の回答が相次ぎ、中小の賃上げの機運は高まっていた。トヨタ自動車九州は賃金改善分と定昇を合わせた総額で組合員平均2万2000円の要求に満額回答。西部ガスホールディングスや西日本鉄道でも比較可能な中で過去最高の賃上げとなった。
- ◆労組がない中小企業にも賃上げが波及している。もつ鍋店「博多もつ鍋やま中」を運営するやま中(福岡市)は、4月に7%のベアを実施。23年の8月の4%のベアを上回り過去最高となった。小野社長は「物価高が続く中、社員の生活を守るために賃上げを決めた」と話す。《中略》
- ◆福岡は製造業など賃上げをけん引する業種が多く、全国平均を上回る賃上げ率となっているが、連合福岡は「業種によっては下回っている」と指摘する。藤田会長は「賃上げが当たり前の社会をつくるためには、公正取引と適切な価格転嫁が重要だ。国や県、地域経済団体とともに中小組合を支援し、高水準の賃上げの流れを全体に波及させていきたい」と話した。

日本経済新聞 朝刊 25/04/12【39面】

第23巻第11号
Vol. 272

発行日
2025/04/15

目次:

脱「新卒一律処遇」 広がる！	1
PayPay給与100社超 デジタル払い、 導入広がる	1
福岡の中小、 賃上げ広がる 6.01%、 15年以降で最高	1
《連載 17》 待ったなし！ 中小企業のDX化の スキームと進め方	2

HRM(ヒューマンリソースマネジメント)に役立つ

ISマネジメントレター Vol.272号 2025/04/15

発行人：片岡 俊彦

発行所：イノベーションサポート
福岡市南区大橋 3-16-5-304
〒815-0033

携帯：090-1517-7758 FAX：092(512)6452



e-mail
kataoka@inno-
support.com



URL
http://www.inno-
support.com

雑感：2025年度がスタートした4月1日、主要企業で入社式が開催された。新型コロナウイルス禍を経て変革が求められている西日本鉄道の林田社長は「企業文化に染まる必要はない。新しく挑戦したいことは積極的に提案してほしい」とエールを送った。各社のトップからは挑戦することの意義を問い、新入社員を鼓舞する訓示が続いた。いつもながらの風景だが、今年の新入社員の皆さんには、各人、それぞれが持つ夢の実現に向かって切磋琢磨してほしい。

★★★★イノベーションサポート のコンセプト★★★★

イノベーションサポートは、戦略実現型人事マネジメントへの変革、組織・人材の開発・活性化の事業を推進・サポートをいたします。

★★★★コンサルティング実績

●経営戦略・ビジョンづくり

物流サービス企業/
中期経営計画づくり～
業績管理の仕組み構築
広告代理店/
年度経営計画の策定
～業績管理の定着支援

●人事マネジメントシステム構築

マンションメーカー/
年俸制と目標管理制度
の導入・定着化支援
医療機器商社/
人事処遇制度改定と
人事諸制度見直し支援

●研修、セミナー

情報システム企業/
次世代ビジネスリーダー養成研修
官公庁/「会計 決算書の読み方」研修
ほか

＜連載17回＞

待たなし！ 中小企業のDX （デジタル トランスフォーメーション） 化のスキームと進め方

Chapter 3 DX時代の開発手法

2. デジタイゼーションの進め方

4) SaaSでデジタイゼーションの具体例

SaaSを活用した具体例を見てみましょう。日本の食品流通企業では、棚卸し業務は食品の鮮度管理のため頻繁に行われる現場業務の一つです。しかし、棚卸票となる紙が存在するため、IT化が難しい領域でした。そこで、従来、手作業で行っていた棚卸のデータ入力業務を「Tegaki」というSaaSを導入することで効率化を図りました。まず、商品名や数量が手書きで記入された帳票を、スキャナーを使い画像データに変換します。そのデータを「Tegaki」で読み取ることで、帳簿上の情報を素早くデータ化しました。データ化された帳票は、そのまま在庫管理システムに登録され、商品在庫の過不足を瞬時に確認できるようになりました。

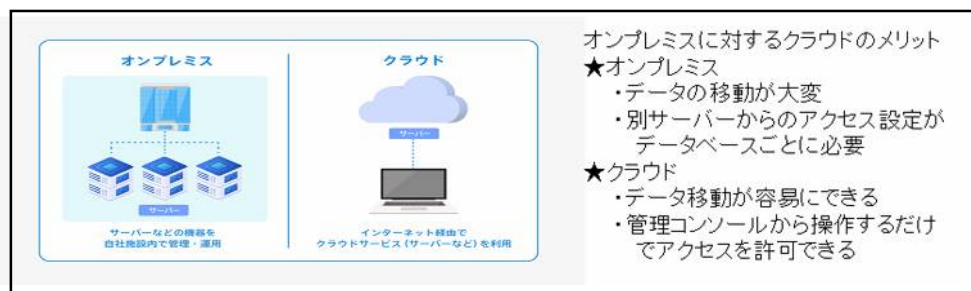
従来、棚卸票のデータ化には、帳票1枚当たり約30分程度の処理時間がかかってい

ましたが、SaaSの導入により、10分程度にまで短縮できるようになりました。

5) データの運用

アナログ業務をデジタル化する時考えなければならないのが、データの運用方法です。今後のデータ活用を考えるなら、オンプレミス環境ではなくクラウド環境で管理するのが必須です。

セキュリティの都合上、閉ざされたオンプレミス環境で管理しなければならないケースもあります。しかし、クラウドのセキュリティも強固になってきているので、よほど機密性の高いデータでもなければ問題ないでしょう。ほかの業務システムからの利用を前提に、クラウドストレージの利用を検討してみましょう。このように、取得したデータをどの業務で利用できるか、クラウドを意識して、データをアクセスできる環境に格納することもDXを進めていくうえで重要なことです。



3. デジタイゼーションの進め方

1) デジタイゼーションの目標

デジタイゼーションでデジタル化したデータをビジネスプロセス上で活用することがデジタイゼーションです。ここでの目標は、レガシーシステムを刷新して、ユーザーが扱いやすい業務システムを開発することです。デジタイゼーションでデジタル化したデータは、クラウドなどに保存されているはずですが、それらのデータを必要に応じて利用し、又は、インプットされたデータを利用可能な状態にします。単に業務システムの効率化だけを考えると、必要のないデータや解析に使用できないデータも膨大に増えていく恐れがあります。デジタイゼーションと同様に、どのデータを活用したいのか、あらかじめ目標を設定して開発していくことが大切です。

2) 開発の進め方

レガシーシステムを刷新する工程を見てい

きましょう。特に注力すべき工程は「企画」「設計」「開発」です。企画の工程では、ユーザーがシステムを操作し易く、データの入出力がしやすいユーザビリティを考慮することが重要です。その結果として、業務効率化が図られデータも集まってきます。そのためにも、ヒアリングなどを通じて得た課題をしっかりと把握して、解決策につなげることが重要です。

設計工程では、データが業務システムにどうインプットされ、どうアウトプットするのが良いかを検討することが大切です。インプットされたデータの利用は、システム内だけで完結するものではありません。

開発工程で重要なのは、スピード感。そのため既存のシステムをいかに効率よく改修していくかを考える必要があります。失敗しても、直ぐに改善が行えるように開発体制を構築します。

